

2024 NZ 視察報告

団長 長野上水内教育会事務局長 田川 昌彦

【日程・研修内容他】

- 初日に、ベストスタート（保育施設）、INTERMEDIATE SCHOOL（中学校）、高等学校を視察し、残りの4日間は同じ小学校で研修を実施したことが、NZ教育（ロトルア）の全体像をつかんだ上で、教職員や児童との信頼関係を構築することが可能となり、より充実した研修になった。
- 同じ先生たちの家に、複数名がホームステイしたことは研修者相互の安心感や心強さもあり、教員の家庭生活を垣間見るよい機会となった。
- ロトルアへの視察実績があり、現地を知る伏木先生に同行していただいたことは大きかった。また、現地の学校をよく知る Yumiko さんが通訳兼コーディネーターとして全日同行していただいたことで研修内容が深まった。経験者の同行は必須である。
- リンモア小学校では、「日本文化を紹介する授業」実習をさせてもらった。参加者は、かなり前から準備を進め、各自手の込んだ日本文化紹介の授業を行った。参観だけでなく授業実習をプログラムに入れることは有意義である。
- 教育会からの補助 20 万、個人負担 30 万程度の費用負担は、適切であったと思われる。教育会の予算運用も可能な範囲であった。（個人研修予算減）



【参加者】

- 参加した4名は、英語力に応じて自らコミュニケーションを積極的に図り、それぞれ大変工夫した日本文化紹介の授業を展開していた。また、事前の学習や視察期間を通じて意欲的かつ協力的で、研修を通してたくさん収穫があったものと思われる。
- 4名募集のところ13名の応募があったことは、海外研修に関する先生方のニーズが高いことが証明された。NZ派遣研修を今後も継続していく価値がある。
- NZで学んだことを日常の学校生活や授業にどのように活かすかについて、総集会や会報など多様な手段で会員に広げ還元していくことが重要である。



【視察内容】

- 教育事情や文化、教育制度が異なるのでそのまま受け入れることは難しいが、これからの日本の教育のあり方（個別最適な学び）を考える上で大変参考になる視察だった。
- リンモア小学校は、多様な民族の通う学校で、子どもたちや先生方が私たちに対して大変フレンドリーだ



った。普段から多様性の中で違いを受け入れて生活していることが影響している。多文化共生・調和のため、歓迎の“ハカ”などマオリ文化の継承を大切にしていた。

- マオリ出身の校長先生の考え方、学校経営方針が明確で力がある方で、人事もかなり大胆に行われており、職員に考え方が浸透している雰囲気を感じた。



- 国（教育省）が示す、Values Rubric=4つのコンピテンシー（①ALOHA=思いやり 親切 ②Courage=勇気 ③Curiosity=好奇心 ④Integrity=誠実さ）が各教師に浸透しており、教室の柱に書かれていた。この4つの力を伸ばす教育がコアになっていて、それが【読み・書き・計算】で測れる学力を高めるのだという教育観を共有していた。

- どの教室も「チルドレンファースト」が徹底しており、子どもたちそれぞれがそれぞれの学び方で学ぶ風景が印象的であった。決して放任ではなく、先生方が一人一人の「学び方」を把握しながら支援が適切に行われていた。



- 各教室の掲示に優れたものが多かった。学習用掲示のみならず PASSION CIRCLE や Six Bricks 教室の床に書かれたメッセージなど子どもたちがいつも意識して生活している指標や理念が明確になっていた。



- 1・2年生の授業に学ぶことが多かった。児童にその時間の「MUST DO」と「CAN DO」が明確に示され、参観した授業の「MUST DO」では、絵本の読み聞かせが行われていたが、テーマは“Insect（昆虫）”読み聞かせの活動の中に「身体を動かす活動（体育的活動）」「アルファベット（言語活動）」「数学的活動」「理科学習」など総合的に学習が営まれていた。その後の「CAN DO」は12種類の活動から選択する学習であった。その間の担任の先生の支援（落ち着かない子や集中しない子への対応）が見事であった。



- ハリーポッターのホグワーツ魔法学校のように、全校児童が縦割りの4つのグループ（MAUI MAIA ALOHA PONO）に所属し、それぞれの旗を掲げてスポーツなど教育活動を日常的に行っていた。

- 担任の空き時間確保のために、学校長裁量で、PE（体育）・DRAMA（ドラマ）・NATURE（環境）の常勤講師が採用されてオリジナルの授業カリキュラムを実施していた。NATURE



の授業を行っていたのは、長谷 洋介さんという日本人の方であった。校地内にある森、川をフィールドに、下草刈り、肥料づくり、苗木の植え込み あるいは近くの湖に行って、外来種であるナマズを仕掛けた網で捕獲する授業など、体験活動を伴った環境教育がダイナミックに展開されていた。

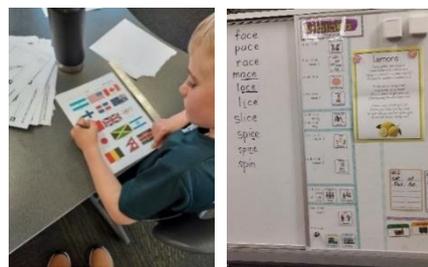


- 保育施設ベストスタートでは、日々の子どもの成長を写真等で記録して「〇〇のパーソナルヒストリーアルバム」を作成し、保護者に渡していた。これが、通知表であり、卒業証書になっている。施設内に常時展示されており誰もがみれるようになっている。



- 貧困や家庭的・経済的な理由で学校を欠席する子どもは結構（15%程度）いるが、先生方は、家庭訪問、学習保障など全くしない。それは、ソーシャルワーカーなど福祉の仕事と割り切っている。いわゆる日本のような学校不応、不登校の子どもは0である。

- 時間割は50分授業が4コマ。間に、モーニングティータイムやクッキータイムが設定されていて、子どもたちは自由にお菓子や果物を食べる。甘いものを摂取することが学習にもよいという考え方をしている。ランチタイムはそのうちの一つにすぎず、日本のようにしっかりと昼食を摂るといった概念はない。昼食は持参したお弁当と希望者に配られるランチボックス。全体的に1日の時間の流れ方がゆったりしている。



- NZの学校にないもの

教科書、通知表、家庭訪問、教育委員会、個人用の机・椅子

- 児童の下校は15:00。スタッフ会議がある日もあるが、基本的には教員は16:30には帰宅。家事と家族団らんの時間となる。家事をしない男性はキウイハズバンドと呼ばれ軽蔑されている。



- スタッフルーム（職員室）

日本の職員室のイメージとは全く違う。お菓子や果物が常備、ビリヤード台や健康器具などもあって、ソファでくつろぎながらコミュニケーションを図る場。





<宮川教諭授業 信州新町クイズ>

<武田教諭授業 紹介VTR・紙相撲・折り紙・はし>



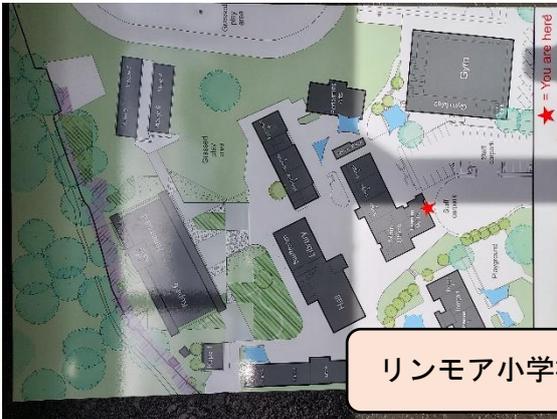
<堀口教諭授業 着物・シルク・海苔>



<小田切教諭授業 紹介VTR・けん玉>



<於 テピア リンモア小学校の先生方と>



リンモア小学校の敷地・入口